

[普及事項]

新技術名：落葉果樹（ナシ、ブドウ）主要病害に対する新殺菌剤の実用化（平成3～7年）

研究機関名 果樹試験場天王分場
担当者 深谷雅子・加藤作美

[要約]

新殺菌剤のフロンサイドS C 2000倍は、ナシ輪紋病、ブドウ灰色かび病および晩腐病に、またフルピカフロアブル2000倍はブドウ灰色かび病に対し高い防除効果が認められた。

[ねらい]

落葉果樹（ナシ、ブドウ）の主要病害に対し、有効な新殺菌剤を検索し、実用化を図る。

[技術の内容・特徴]

- (1) 平成3～7年に、果樹試験場天王分場内圃場において、フロンサイドS C 2000倍のナシ輪紋病、ブドウ灰色かび病および晩腐病に対する防除効果を検討した。またフルピカフロアブル2000倍のブドウ灰色かび病に対する防除効果を検討した。
- (2) フロンサイドS C 2000倍はナシ輪紋病に対し、慣行のフジオキシラン水和剤600倍よりも高い防除効果が認められた。「幸水」および「バートレット」のいずれにおいても葉害は見られず実用性が高い。
- (3) フロンサイドS C 2000倍はブドウ晩腐病に対し、慣行のジマンダイセン水和剤1000倍よりも発病が少なく、高い防除効果が認められた。6月上旬から開花前までの2回散布により「巨峰」や「ピオーネ」に葉害は認められず実用性が高い。
- (4) フロンサイドS C 2000倍はブドウ灰色かび病に対し、開花前および落花期の2回の散布により慣行のロブラール水和剤1500倍よりも発病が少なく、高い防除効果が認められた。「巨峰」において葉害の発生は見られなかった。
- (5) フルピカフロアブル2000倍はブドウ灰色かび病に対し、開花前および落花後の2回散布により、慣行のロブラール水和剤1500倍よりも発病が少なく、高い防除効果が認められた。「巨峰」において葉害の発生は見られなかった。

[普及対象範囲]

県内のナシ、ブドウ栽培地域

[普及上の留意事項]

- ・フロンサイドS C 2000倍は、ブドウの幼果期以降に散布すると葉害が発生するので、安全使用基準の開花直前～落弁期までの使用時期を遵守する。
- ・ブドウ灰色かび病防除において、フロンサイドS C 2000倍およびフルピカフロアブル2000倍はいずれもジカルボキシイミド系やベンズイミダゾール系薬剤耐性菌に対しても有効である。

[具体的なデータ等]

表1 ナシ輪紋病に対する防除効果（H5年）

薬 剤 名	希 積 倍 数	幸 水		パートレット	
		調査果数	発病果率	調査果数	発病果率
フロンサイドSC	2000倍	537	2.0%	151	19.9%
ジマダイセン水和剤	600	211	6.2	127	21.3
無 散 布	—	30	30.0	81	43.2

薬剤散布月日：6/28、7/8、19、27、8/6

表2 ブドウ灰色かび病に対する防除効果（H3年）

薬 剤 名	希積 倍数	調査 房数	発病 房率
フロンサイドSC	2000倍	100	2.0%
ロブラール水和剤	1500	100	22.0
無 散 布	—	72	45.8

・供試樹：巨峰（雨よけ栽培）

散布月日：6/4（開花前）、6/15（落花後）

調査月日：7/3

表3 ブドウ晩腐病に対する防除効果（H7年）

薬 剤 名	希積 倍数	ピオーネ		巨 峰	
		調査 房数	発病 房率	調査 房数	発病 房率
フロンサイドSC	2000倍	172	4.1%	122	6.6%
ジマダイセン水和剤	1000	148	11.4	137	11.7
無 散 布	—	96	21.9	51	23.5

供試品種：巨峰、ピオーネ

散布月日：6/2、6/12

調査月日：6/20

表4 ブドウ灰色かび病に対する防除効果（H4年）

薬 剤 名	希積 倍数	調査 房数	発病 房率
フルピカ7077	2000倍	130	0%
ロブラール水和剤	1500	130	7.7
無 散 布	—	253	36.2

供試品種：巨峰（雨よけ栽培）

散布月日：6/17（開花始め期）、7/3（落花後）

調査月日：7/8

[発表文献等]

・果樹試験場業務報告（平成3、4、5年度）